

令和 2 年度

大阪市立水都国際中学校及び大阪市立水都国際高等学校

指定管理法人業務 事業報告書

学校法人 大阪YMCA

1 特定公立国際教育学校等の概要

名称	大阪市立水都国際中学校 大阪市立水都国際高等学校
所在地	大阪市住之江区南港中2丁目7番18号（東学舎） 大阪市住之江区南港中3丁目7番13号（西学舎）
設置形態	学校教育法第71条に規定する併設型中高一貫校
設置学級数	中学校 2年4学級（160名） 高等学校 2年4学級（154名）

2 指定公立国際教育学校等管理法人（指定管理法人）の概要

法人名	学校法人大阪YMCA
主たる事務所の位置	大阪市西区土佐堀1丁目5番6号
代表者	理事長 末岡 祥弘
担当役員	理事 佐藤 裕幸
担当者	次長 箕浦 史郎
連絡先	06-7662-9600
指定期間	平成31年4月1日～令和11年3月31日
報告対象期間	令和2年4月1日～令和3年3月31日

3 指定管理法人業務の実施状況

(1)管理運営上の目標

<教育目標> 「社会に貢献する協創力をみがく」 中高共通

主体性...強い意志と使命感を持って、自ら考え判断し、行動する資質・能力。

寛容性...多様な価値観やその背景を心広く、受け入れる資質・能力。

創造性...新たな価値を生み出していくことができる資質・能力。

<課題> 「国際社会で活躍し、大阪の経済成長をけん引する人材を育てる」

中高共通

<重点目標> 「実用的な英語教育並びに課題探求型の教育実践」

高等学校：国際バカロレアのカリキュラムに対応できる英語能力の向上と、批判的（クリティカル）に課題を見つけ出し、解決していくスキルの修練と向上をめざす。

中学校：実用的な英語教育に重点を置き、自ら課題を発見し解決することを目的とした課題探究型授業を多く展開し、生徒の主体的に学ぶ力や豊かな知性の育成をめざす。

(2)具体的な取り組みとその結果

1.中高共通：

①安心で安全な学校生活の実現

中学校では道徳の授業において「相互理解、寛容」の項目を充実させ、自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる価値観、意見も大切にす姿勢が一層育まれている。高校では、グローバルイシュー探究の授業において、自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる価値観、意見も大切にす「寛容・個性尊重」の姿勢が一層育まれている。

②「いじめについて考える日」

有志生徒が中心になり、全クラスにて、中学生が高校生のクラスで司会進行を務めるなど中高一貫教育校の特色をいかした授業を行った。「いじめはどうして起こるの

か？」についてのグループディスカッション、また、本校の多様性について意見を出し合い、歌や記事を使用するなど、生徒のアイデアが詰め込まれた時間となった。

③学校内で行われた学校説明会での生徒発表。

学校紹介の部分を中高それぞれでスライドを作成し、参加された保護者・受験生に説明を行った。質疑応答もこなした。生徒自身の生活・活動を話すことで、参加した一人一人の自覚が芽生え、より積極的に参画しようとする姿勢が育まれた。

④スクールフェスティバル(文化祭)の企画運営。

今年度は生徒のみ来校、保護者はオンラインで参加する形式となった。趣向を凝らした各クラスの出し物とステージ発表、GAPS等の展示はオンラインでも終日盛り上がった。実行委員を中心に、新型コロナウイルス感染症の感染予防を行った上で、生徒主体で最大限に工夫を凝らしたスクールフェスティバルとなった。

⑤アカデミックフェア(学習発表会)開催

アカデミックフェアは、多様な学び方についての理解を深めることを目的とし、テーマ別にグループに分かれてリサーチ、ワークショップ、プレゼンテーションを行う取組である。令和2年度は、生徒は対面、保護者はオンライン参加の形式で開催した。各教科の学びについて、事前に作成した動画等を用いてグループ発表を行い、その様子をライブ配信した。

⑥ICTを活用したオンライン授業の展開

ICTを活用し、生徒の学びを止めないために、臨時休校期間中オンライン授業を展開してきた。また、休校空けも教室での授業をオンラインで配信することで、個々の事情で登校できない生徒を対象に、自宅で受講ができるようにした。(ハイブリッド授業)こうした先進的な取り組みは、文部科学省「小中高等学校におけるICTを活用した学習の取組事例」において取り上げられた。

2.高等学校

①文部科学省の留学促進キャンペーン「トビタテ！留学 JAPAN」において、コロナ禍の秋に、社会課題についてグローバルな視点から学びたい高校生のためにスタートした「#せかい部×SDGs 探究プロジェクト」に本校1年生が応募し、ベストレポーター5人の中の1人に選ばれた。全国から400名の応募があり、45都道府県の171名のレポーターが選出されていた。

②ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 運営委員会が主催するワン・ワールド・フェスティバル for Youth に本校のGAPS活動の1つであるICS(Impact Citizens for SDGs)のメンバーが参加。高校生のためのオンラインポスターセッション審査会において、ICSの考案したSDGs calendarについて発表し、特別賞を受賞した。

③英語力を測るために、TOEFL Jr.を年に2回実施。

IBコースを選択する際の基準の一つとした。世界のトップ7%の成績を収めた生徒が高校1年生・2年生合わせて本校から10名以上出た。

④2年生に向けたコース選択について、3コースのそれぞれの特徴的な教科の体験授業を行った。

⑤IBコース選択希望者に対して、生徒・保護者対象の説明会兼授業体験会を実施。IBコースの生徒がCASの一環として、実際に体験授業を準備・実施を行った。国際バカロレアで行われる授業や制度について、より現実的な説明を生徒・保護者に行うことで、より生徒に合った選択ができるように働きかけた。進路選択に対しては、一定の成果・効果があった。

3.中学校

①英語四技能を測るために、AAPPLテストを実施。

スピーキングを含めた英語四技能の伸長を測るために、AAPPLテストを11月に実施。

②ST（水都探究）の実施。

全生徒で探究テーマを設定し、調査に基づく研究を進め、全学年においてその取組に関する発表会を行った。

(1) Google for Education 事例校に認定。

一人一台貸与している Chromebook を活用した多くの教育活動における取組が認められ、Google より、Google for Education 事例校に認定された。

(2) RESAS(Regional Economy (and) Society Analyzing System 地域経済分析システム)プロジェクト

RESAS（内閣府のまち・ひと・しごと創生本部が運用している、産業構造や人口動態、人の流れなどに関する官民のいわゆるビッグデータを集約し、可視化を試みるシステム）

令和2年度はオンラインで、広島叡智学園中学校の参加者と、学校紹介や合同ミーティング、地域研究などに取り組み、最後には地域の「理想のミライ」を提案すると共に、Action Plan を示した。

(3) ジュニア EXPO2025

総合的な学習の時間を利用し、教育プログラム「ジュニア EXPO2025」を用いて「すべてのいのちが輝くアイデアとは」をテーマに、地域や社会の課題について、子どもたち自身が仲間とともに発見し、課題解決に取り組んできた。それぞれの考えの良さを認め合える力をつけるために、同じ立場で学習を進めてきた府内中学生と考えを共有した。

(3)教育課程

1.中学校教育課程について

別紙 1-1 中学校教育課程表に基づいて実施

2.高等学校教育課程について

別紙 1-2 高等学校教育課程表に基づいて実施

3.英語を用いた授業の実施状況

①中学校

英語、数学、理科、グローバルスタディの授業で英語を用いた授業を行なった。ホームルームの一部についても英語を用い授業を実施。

②高等学校

英語、数学、理科、グローバルイシューの授業で英語を用いた授業を実施。ホームルームの一部についても英語を用いた。

(4)年間行事

中学校（別紙 2-1）、高等学校（別紙 2-2）の年間行事予定表に基づいて実施。

(5)入学者選抜の実施状況

<中学校>

日 程：2021年1月23日、24日

志願者数：356名

合格者数：80名

<高等学校>

日 程：2021年2月18日、19日

志願者数：107名（特別選抜 101名、帰国生選抜 6名）

合格者数：80名（特別選抜 74名、帰国生選抜 6名）

(6)卒業者の状況

今年度は卒業対象者なし。

(7)その他処分の状況

処分等		中学校	高等学校
懲戒	退学	0	0
	停学	—	0
	訓告	0	0
転入学		—	0
編入学		—	0
退学		—	3
休学		—	0
留学		—	0
その他		0	0

(8)民間知見を活用した教育活動の状況

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、多くの教育活動が制限される中、積極的にICTを利用した教育を実践し、学びを継続させた。また、水準の高いICT活用が評価され、Google for Education 事例校認定を受けた。

(9)教育上特別の配慮を必要とする生徒への支援等の状況

- ・大阪YMCAから専門家を招き、特別支援委員会を月に一度開催し、当該生徒の学校生活の様子を把握し、対応を検討している。また、生徒と生徒の保護者と連携しながら、個別の支援計画の作成を行っている。

(10) 管理施設の補修・修繕、更新等の状況

- ・保健室間仕切りカーテン及びカーテンレール設置
- ・網戸設置
- ・壁掛扇風機設置
- ・西学舎玄関雨漏り修繕
- ・東学舎西側フェンス周辺除草
- ・受変電設備更新改修工事 等

4 職員の配置状況

(1) 教職員の配置状況（令和2年5月1日時点）

職名	中学校		高等学校	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤
校長	1*中高共通	0	0	0
副校長	0	0	1*中高共通	0
教頭	1	0	1	0
主幹教諭	0	0	0	0
指導教諭	0	0	0	0
教諭	7	1	19	4*中高共通
養護教諭	1*中高共通	0	0	0
栄養教諭	0	0	0	0
実習助手	0	0	5	0
事務職員	1	0	9	0
学校用務員	1*中高共通	0	0	0
計	12	1	35	4

(2) 外国人の教諭等の配置状況（令和2年5月1日時点）

職名	教員免許状	担当教科	担当校種	雇用形態
英語教諭（3名）	特別免許	英語	中学校1名、 高等学校2名	常勤
数学教諭（2名）	特別免許	数学	高等学校	常勤
理科教諭（3名）	特別免許	理科	高等学校	常勤
英語指導助手 （5名）	なし	英語・数 学・理科・ グローバル スタディ ー・グロー バル・グロ ーバルイシ ュー研究	高等学校	常勤
ICT職員（1名）	なし	ICT	高等学校	常勤

5 管理代行料に係る収支の状況

(1) 収入

項目	金額
管理代行料	448,899,421 円

(2) 支出

項目	金額
人件費	310,522,221 円
その他報酬	4,430,290 円
旅費	356,653 円
消耗品費	13,506,968 円
光熱水費	7,670,580 円
建物・備品修繕料	18,737,734 円
通信運搬費	1,599,613 円
施設管理費	10,120,120 円
中学校給食実施費	14,762,000 円
その他運営費	67,193,242 円
計	448,899,421 円

6 その他取組みの状況

(1) 個人情報保護の取組み

- ・個人情報保護に必要な体制を整備し、適切に管理している。

(2) 情報公開の取組み

- ・学校 HP を活用し、積極的な情報公開に適切に努めている。

(3) 教職員研修の状況等人材育成の取組み

- ・教職員研修会及び O J T 等を用いて学内での人材育成の実施
- ・大阪市教育委員会主催の各種研修及び大阪 YMCA の研修に参加
- ・国際バカロレアワークショップに参加

(4) 入学希望者数増加に向けた取組み

- ・学校説明会実施
中学校：6月6日、10月10日、11月14日 計3回
高等学校：6月13日、10月31日、11月21日、12月19日 計4回
- ・オープンスクール（オンライン動画配信・個別相談）
中学校8月29日、高等学校9月12日 各1回
- ・外部団体等主催進学説明会等参加 年間14回
- ・中学校訪問200校 資料送付 等

(5) 大阪市の学校教育全体の拠点校としての取組み

- ・大阪市中学校教員対象オンライン研修実施

- ・学校訪問受け入れ

(6)国際バカロレアに関する取組み

- ・中学校で「数学」「理科」「国際理解（学校選択教科）」等、高等学校で「数学」「理科」「グローバル探究（学校設定教科）」等の教科等について、英語による指導（イメージ教育）を実施した。

(7)地域との連携、活性化に寄与する取組み

- ・地域活動協議会（毎月）への参加
- ・地域活動協議会活動への学校施設開放

(8)大学・企業等との連携の取組み

- ・大阪教育大学との共同研究
- ・大学教員の学校訪問及び意見交換会 多数
- ・立命館アジア太平洋大学との連携協力および推薦入学制度に関する協定書締結
- ・Google for Education との教育ICT環境の推進
- ・N G O、N P O、企業からの講師派遣、オンライン授業 多数
- ・同志社大学、関西学院大学、関西大学、立命館大学による模擬授業および連携協議

(9)その他の取組み

- ・各教育委員会の学校訪問 等